

3. 別添資料 (3. 生物圏科学研究科)

1. 大学院教育に関する広島大学と研究科の中期目標の対応表	2
2. 研究科と3専攻の概略と人材養成目的	3
3. 連携先機関の一覧	3
4. 施設・設備の整備状況	4
5. 研究科共通機器の例	6
6. 支援職員人員	6
7. 生物圏科学研究科における任期付助教の再任可否に関する申し合わせ	7
8. 広島大学生物圏科学研究科のテニユア・トラック制に関する内規	9
9. 教員活動実績調査概要	11
10. アドミッション・ポリシー	12
11. カリキュラム・ポリシー	12
12. 履修方法	13
13. 講座・教育科目・授業科目の一覧表	14
14. 教育記録システム（eラーニングポートフォリオ）の概要	16
15. 教育カルテとステップアッププログラムによる体系的な教育課程	17
16. ステップアッププログラムによる講義の授業時間割	18
17. 英語で行う講義科目一覧	19
18. 大学院生の出身校別割合	19
19. 社会人院生数の推移	20
20. 社会人特例措置対象者数	20
21. 国際交流協定締結校一覧	21
22. シラバスの一例	22
23. ディプロマ・ポリシー	23
24. 修了要件	23
25. 学位論文の作成プロセス	24
26. 新入生ガイダンス行事日程表	25
27. 大学院生に対する修学・研究支援	26
28. 院生への教育・研究活動・教育目標に対するアンケート（平成24・25年度）	28
29. 院生への教育・研究活動・教育目標に対するアンケート結果（自由記述）	30
30. 本学部で実施したFDの内容	33

別添資料 1 : 大学院教育に関する広島大学と研究科の中期目標の対応表

(出典：生物圏科学研究科作成)

広島大学中期目標	生物圏科学研究科中期目標
<p>I 大学の教育研究等の質の向上に関する目標</p> <p>1 教育に関する目標</p> <p>(1) 入学者選抜に関する目標 (大学院課程) 入学者受入れの方針に基づき、優秀かつ多様な人材の受入れを行う。</p> <p>(2) 教育内容及び教育の成果等に関する目標 (大学院課程)</p> <p>① 各課程・専攻における人材養成像に基づき、グローバル化時代に対応した体系的なカリキュラムを編成する。</p> <p>② 学位授与の方針に基づき、優れた研究者と社会的に評価される能力を備えた高度専門職業人を養成する。</p> <p>(3) 教育の実施体制等に関する目標</p> <p>② FDを充実し、教育の質の向上を図る。</p> <p>(4) 学生への支援に関する目標</p> <p>② 学生の経済的支援を充実する。</p> <p>③ 在学生のみならず既卒者も含めたキャリア支援体制を構築する。</p>	<p>I 大学の教育研究等の質の向上に関する目標</p> <p>1 教育に関する目標</p> <p>(1) 入学者選抜に関する目標 (大学院課程) アドミッションポリシーに基づき、成績調査と、総合的なアンケート調査を検討する。</p> <p>(2) 教育内容及び教育の成果等に関する目標 (大学院課程)</p> <p>① 各専攻における人材養成目標に基づき、社会の多様な要望に応じて、教育グローバル化時代に対応した体系的なカリキュラムを編成する。</p> <p>② 研究科人材目標に基づき、優れた研究者と社会的に評価される能力を備えた高度専門職業人を養成する。</p> <p>(3) 教育の実施体制等に関する目標</p> <p>② FDを充実し、教育の質の向上を図る。</p> <p>(4) 学生への支援に関する目標</p> <p>② 学生の経済的支援を充実する。</p> <p>③ 在学生のみならず既卒者も含めたキャリア支援体制を構築する。</p>

別添資料 2 : 研究科と 3 専攻の概略と人材養成目的 (出典 : 生物圏科学研究科細則)

教育単位	博士課程前期	博士課程後期
研究科	自然と調和する持続的な生物生産活動の創出と展開, 生物機能・生物資源の活用とその高度利用技術の開発及び生物圏内の循環系を評価・予測・制御する技術の開発に関する教育・研究を実践し, 地域・国際社会における応用生物学・環境学系の主に高度専門技術者として, 時代と社会の要請に応え得る人材を養成する。	自然と調和する持続的な生物生産活動の創出と展開, 生物機能・生物資源の活用とその高度利用技術の開発及び生物圏内の循環系を評価・予測・制御する技術の開発に関する教育・研究を実践し, 地域・国際社会における応用生物学・環境学系の主に研究者として, 時代と社会の要請に応え得る人材を養成する。
生物資源科学 専攻	資源生物の生体機能と生態の解明, 先端的生物生産技術の開発及び循環型生物生産社会システムの構築のための理論と方法を習得させる教育・研究を行うことにより, 生物生産に関する高度な知識・技能を習得し, それらの実践的な応用を通して, 社会に貢献できる人材を養成する。	資源生物の生体機能と生態の解明, 先端的生物生産技術の開発及び循環型生物生産社会システムの構築のための理論と方法をもとに, 研究能力と応用展開能力を習得させる教育・研究を行うことにより, 生物生産に関する高度な知識・技能を習得し, それらの実践的な応用と発展を通して, 社会に貢献できる人材を養成する。
生物機能開発学 専攻	分子・細胞の視点から生物機能を理解して活用するため及び食資源の視点から生物資源を理解して活用するための理論と方法を習得させる教育・研究を行うことにより, 生物機能及び生物資源の活用に関する知識・技能を習得し, それらの実践的な応用を通して, 社会に貢献できる人材を養成する。	分子・細胞の視点から生物機能を理解して活用するため及び食資源の視点から生物資源を理解して活用するための先進的な理論と方法, 研究能力及び応用展開能力を習得させる教育・研究を行うことにより, 生物機能及び生物資源の活用に関する高度な知識・技能を習得し, それらの応用と発展を通して, 社会に貢献できる人材を養成する。
環境循環系制御学 専攻	生物圏内の循環系の評価・予測・制御について, 学外機関と連携しつつ教育・研究を行い, 特に山・川・海にまたがる瀬戸内圏をモデル圏域とすることにより, 地球規模に及ぶ広域環境を俯瞰でき, かつ地域の要請にも応え得る人材を養成する。	生物圏における物質循環及び生物生産に関する評価・予測・制御について, 地域から地球規模, 過去から未来など多様な時空間尺度での教育・研究を行うことにより, 地球環境や社会経済環境の変動に関して高度に専門的・即応的・国際的な対応能力を有する人材を養成する。

別添資料 3 : 連携先機関の一覧 (出典 : 研究科作成)

連携先機関の一覧

- (独) 産業技術総合研究所中国センター : (教授 1 人, 准教授 1 人)
- (独) 農業・食品産業技術総合研究機構近畿中国四国農業研究センター : (教授 1 人, 准教授 1 人)
- (独) 瀬戸内海区水産研究所 : (教授 1 人, 准教授 1 人)
- (独) 海洋研究開発機構 : (教授 2 人, 准教授 1 人)
- (独) 酒類総合研究所 : (教授 1 人, 准教授 2 人)

別添資料 4 : 施設・設備の整備状況

1. 瀬戸内圏フィールド科学教育研究センター

センターは陸域生物圏部門（農場）、動植物精密実験部門（家畜環境制御実験棟・精密実験圃場）、海域生物圏部門（水産実験所）、及び食資源機能開発部門（食品製造実験実習工場）の4部門で構成されており、生物圏科学研究科と生物生産学部のフィールドワークを重視した現場対応型、問題解決型の実験実習ならびに関連研究に活用されている。

(1) 農場

酪農機能に重点を置いた飼養・試験施設を整備し、また肉牛、綿羊、ヤギの飼育施設も備えている。乳牛関連施設のうち「搾乳ロボット」と「乳成分分析装置」は特筆すべき設備で教育研究に活用されている。

品種	乳牛		肉牛		綿羊		ヤギ	
	搾乳牛	育成牛	繁殖牛	育成牛	成畜	子畜	成畜	子畜
頭数	33	3	8	20	12	7	9	19



(2) 家畜環境制御実験棟・精密実験圃場

教育と研究に用いるニワトリとウズラの家禽類、研究用のヤギと綿羊を飼養する家禽舎・家畜舎を整備し、また環境温度を調節できる環境制御室も備えている。精密実験圃場では、屋外の圃場、ガラス室と網室を備えた施設を整備している。



(3) 食品製造実習工場

乳製品、肉製品、水産缶詰製造の実験実習設備のほかに、原料や加工品の成分分析に用いる研究用精密分析機器を備えている。



(4) 水産実験所

沿岸域のフィールド教育・研究に用いる「小型調査船舶カラス丸」、海域生物の飼育・増殖実験を行うことができる「屋外飼育実験棟」、「増殖実験飼育棟」、「精密実験飼育棟」を施設として整備している。



2. 練習船「豊潮丸（とよしおまる）」

総トン数 256 トン、乗船定員 32 名で、生物系設備・装置、海洋環境系設備・装置、気象環境系設備・装置、基礎資料等設備・装置、ウインチ装置等を備えており、国内外の海域での乗船実習や海洋生物学・水圏環境学などの学生実習・演習等や海洋生物資源研究に活用されている。附属練習船基地では、採集試料やデータの一時的な分析・処理を行う設備も整備している。



3. 教育関係共同利用拠点

西条ステーション（農場），練習船豊潮丸，竹原ステーション（水産実験所）の3施設が，他大学の学生教育に活用する教育関係共同利用拠点到に認定されている。

(1) 農場（西条ステーション）

拠点名：食料の生産環境と食の安全に配慮した循環型酪農教育拠点.

認定期間：平成 22 年 6 月 10 日～平成 27 年 3 月 31 日

（再認定されて平成 27 年度から 31 年度も継続する）

(2) 水産実験所（竹原ステーション）

拠点名：瀬戸内海における里海学フィールド教育拠点.

認定期間：平成 24 年 7 月 31 日～平成 29 年 3 月 31 日

(3) 練習船豊潮丸

拠点名：瀬戸内海における洋上里海教育のための共同利用拠点

認定期間：平成 24 年 7 月 31 日～平成 29 年 3 月 31 日

4. 共通機器

DNA シーケンサー，アミノ酸分析装置，質量分析計，電子顕微鏡など，生物圏科学の多様な研究で用いる約 80 台の高度な実験用機器を共通機器として集約管理している。(別添資料 25 に詳細)

5. 情報関連設備

情報教育室にコンピューター39台を整備し，専門的な講義や演習に用いているほか，学生が自由に利用できるようにして自習等に活用している。また，すべての講義室にマルチメディア設備を整備し（2 講義室），講義やセミナー等に活用しているほか，山口大学との双方向授業ができるテレビシステムも整備している。

6. その他の施設・設備

水生動物の生理・病理・行動生態等に関する研究に利用する「屋外実験水槽」，動植物・微生物の代謝や元素の動態解析に利用する「ラジオアイソトープ実験棟」を整備している。また，「遺伝子実験施設」が全学施設として整備されている。

別添資料 5 : 研究科共通機器の例 (出典 : 研究科作成)

機 器 名	規 格	業 者 名	取得日付
DNA シーケンサー	アフライト [®] バイオシステムズ社 310-10N	大塚器械(株)	2004.10.28
フルオロ・イメージアナライザー	F L A - 7 0 0 0	大塚器械(株)	2008..04.23
プロテインシーケンサシステム	アフライト [®] バイオシステムズ社 492-02A	大塚器械(株)	2008.05.14
ペプチド合成機	島津製 P S S M - 8	総合科学部	1997.03.21
全自動アミノ酸分析機	日本電子(株) JLC-500/V2	日本電子(株)	2007.08.06
蛍光顕微鏡	ニコン E6F-21-1	(株)猪原商会	1999.03.12
(C C D カメラコントローラー付)	浜松ホトニクス製 C4745-CCU	(株)猪原商会	2003.01.22
高速大容量冷却遠心機 7780		大塚器械(株)	2005.06.01
超遠心機	日立後記(株)製 HIMAC CP80WX	大塚器械(株)	2013.01.24
高速液体クロマトグラフ LC/MS/MS	日本ウォータース [®] (株)	大塚器械(株)	2010.02.18
リアルタイム PCR システム	米国ライフテクノロジーズ [®] ジャパン(株)	大塚器械(株)	2011.02.18
クリオスタット			
ガスクロマトグラフ	島津製作所 GC-1700	日新精器(株)	2001.06.15
ガスクロマトグラフ	島津製作所 GC-8A I T	日新精器(株)	2003.03.18
オートアナライザー	BELTEC SWAAT	豊潮丸から移管	
CHN コーダー(分析部)	ヤナコ社 MT-5	ヤナコ西部販売(株)	1997.12.25
CHN コーダー(装置制御部)		〃	1997.12.25
CHN コーダーオートサンプラー	MT-5 用	〃	2002.03.29
全有機体炭素計	全自動測定システム	日新精器(株)	1999.03.18
プログラム恒温培養器	ヤマト科学 IN600	大塚器械(株)	1996.07.26
低温恒温恒湿室	1800×1800×2200	大塚器械(株)	2007.12.10
全有機体炭素計	TOC-VCSH	日新精器(株)	2008.04.14
オートサンプラー	島津製作所 ASI-V	日新精器(株)	2011.02.24
ガスクロマトグラフ質量分析計	イオントラップ [®] GC/MS システム GCQ	ミツワ理化学工業(株)	1998.03.25
マルチラベルカウンター	ARVO X4	ヒロセイ	
化学発光検出器	L A S -3000		2002.12.16
生化学自動分析装置	ベックマン・コールター・バイオメディカル	大塚器械(株)	2009.12.24

別添資料 6 : 支援組織人員 (出典 : 研究科作成)

	常勤職員	非常勤職員	備考 (H25.4.1)
支援室長	1 人		
総括主査	1 人		
運営支援室	5 人	15 人	(総務・人事, 財務)
学生支援室	5 人	3 人	
技術センター	11 人	5 人	(西条・竹原ステーション, 工作室, 実験圃場, 食品実習工場の合計)
練習船豊潮丸	10 人	1 人	(基地の非常勤職員 1 名を含む)
計	33 人	24 人	

別添資料 7：生物圏科学研究科における任期付き助教の再任可否に関する申合せ
(出典：研究科規則)

生物圏科学研究科における任期付き助教の再任可否に
関する申合せ

平成24年3月19日
研究科教授会承認

広島大学の教員の任期に関する規則(平成16年4月1日規則第83号)に基づき、生物圏科学研究科において任期を定めて任用している助教について、任期終了時の再任の可否に関して、以下のとおり取り扱うものとする。なお、2以下の条項については、平成25年4月1日以降に採用した者については非適用とする。

1. 任期を定めて任用する教員の職種等

講座等	職	任期	再任に関する事項 (平成25年3月31日 以前に採用した者)	再任に関する事項 (平成25年4月1日以 降に採用した者)
生物資源科学専攻 陸域動物生産学講座 水圏生物生産学講座 食料資源経済学講座	助教	5年	再任可。ただし、1 回限りとする。	再任不可
生物機能開発学専攻 全講座	助教	5年	再任可。ただし、1 回限りとする。	再任不可
環境循環系制御学専攻 全講座	助教	5年	再任可。ただし、1 回限りとする。	再任不可
附属瀬戸内圏フィール ド科学教育研究センタ ー	助教	5年	再任可。ただし、1 回限りとする。	再任不可

2. 再任の可否に関する評価及び審議事項

研究科人事交流委員会は、次の事項について、該当者が十分な業績があるどうかの評価を再任審査委員会に付託する。

- (1) 教育活動に関する事項
- (2) 研究活動に関する事項
- (3) 大学及び社会への貢献に関する事項
- (4) その他必要と認める事項

3. 再任の手続き

- (1) 再任を希望する助教は、任期満了の1年前から6ヶ月前までに、専攻長に教員教育研

- 究活動報告書（別紙様式）を添えて、再任希望の旨を申し出る。
- (2) 専攻長は、上記（1）の申し出を研究科人事交流委員会（委員長：研究科長）に報告する。
 - (3) 研究科人事交流委員会は、代議員会において人事の発議を行う。
 - (4) 代議員会は、上記（3）の発議を認めた場合には、再任審査委員会を設置する。
 - (5) 再任審査委員会は、当該専攻から3名、他の専攻から2名の計5名の委員で構成する。
 - (6) 再任審査委員会は、当該助教の教員教育研究活動報告書を基に、再任の可否を審議する。
 - (7) 再任審査委員会は上記（6）の審議結果を研究科人事交流委員会（委員長：研究科長）に報告するとともに、教授会構成員に教員教育研究活動報告書を配布し、関係資料を閲覧に供した後、教授会に報告する。
 - (8) 教授会は、再任審査委員会の報告に基づき審議を行い、再任の可否を決定する。
 - (9) 研究科人事交流委員会（委員長：研究科長）は、再任の可否を本人通知する。

附 則

この申合せは、平成24年3月19日から施行する。

附 則（平成25年9月2日 一部改正）

この申合せは、平成25年9月2日から施行し、この内規による改正後の生物圏科学研究科における任期付き助教の再任可否に関する申合せは、平成25年4月1日から適用する。

附 則（平成25年12月25日 一部改正）

この申合せは、平成25年12月25日から施行し、この内規による改正後の生物圏科学研究科における任期付き助教の再任可否に関する申合せは、平成25年4月1日から適用する。

別添資料 8：広島大学大学院生物圏科学研究科のテニユア・トラック制に関する内規
(出典：研究科規則)

○広島大学大学院生物圏科学研究科のテニユア・トラック制に関する内規

平成 27 年 2 月 23 日

研究科教授会承認

(趣旨)

第 1 条 この内規は、広島大学のテニユア・トラック制に関する規則(平成 25 年 3 月 26 日規則第 10 号)第 12 条の規定に基づき、広島大学大学院生物圏科学研究科(以下「研究科」という。)において実施するテニユア・トラック制に関し必要な事項を定めるものとする。

(実施する教育研究組織等)

第 2 条 テニユア・トラック制を実施する教育研究組織、テニユア・トラック教員の職名及びテニユア・トラック期間、並びに対象とする事業がある場合の対象事業は、別表のとおりとする。

(テニユア審査及び実施時期)

第 3 条 テニユア審査は、一次審査及び最終審査により行う。

2 一次審査は、テニユア・トラック期間の 2 分の 1 を経過した日から 6 月を経過する日までに、当該期間中の業績評価資料等に基づいて行う。

3 最終審査は、テニユア・トラック期間が満了する日の 6 月前までに、当該テニユア・トラック期間中の業績評価資料等に基づいて行う。

(テニユア審査の基準)

第 4 条 テニユア審査の基準は、別に定める。

(業績評価を行う組織及び審査手順)

第 5 条 テニユア審査の対象となるテニユア・トラック教員の業績評価は、広島大学大学院生物圏科学研究科テニユア審査委員会(以下「テニユア審査委員会」という。)において行うものとする。

2 研究科教授会は、テニユア審査委員会の業績評価の結果に基づき、テニユア審査を行う。

3 研究科長は、研究科教授会の審査結果に基づき、テニユア・トラック教員に対し、次のとおり行うものとする。

(1) 一次審査の結果については、当該テニユア・トラック教員に対して十分説明し、理解を得た上で、必要に応じて改善事項を指示し、又は指導を行う。

(2) 最終審査の結果については、速やかに当該テニユア・トラック教員に通知する。

(テニユアを付与した後の処遇)

第 6 条 テニユア審査の結果、適格と認めるときは、テニユア・トラック教員にテニユアを付与し、テニユア・トラック期間満了日の翌日から雇用期間の定めのない教員とするものとする。

(不服申立て)

第7条 テニユア審査を受けたテニユア・トラック教員は、審査の結果について不服があるときは、書面により研究科長に不服の申立てを行うことができるものとする。ただし、不服申立ては、テニユア審査の結果の通知を受けた日の翌日から起算して14日以内に行わなければならない。

- 2 研究科長は、不服申立てに対し、必要と認めるときは、再度テニユア審査(以下この条において「テニユア再審査」という。)を行うものとする。
- 3 テニユア再審査は、原則としてテニユア・トラック教員としての雇用期間が満了する日の2月前までに終えるものとする。
- 4 研究科長は、テニユア再審査の結果を当該テニユア・トラック教員に通知するものとする。
- 5 テニユア再審査の結果に対する不服申立てはできないものとする。

(雑則)

第8条 この内規に定めるもののほか、テニユア・トラック制の実施に関し必要な事項は、別に定める。

附 則

この内規は、平成27年4月1日から施行する。

別表(第2条関係)

教育研究組織	テニユア・トラック教員の職名	テニユア・トラック期間	対象事業
生物資源科学専攻 陸域動物生産学講座 水圏生物生産学講座 食料資源経済学講座	助教	5年	平成26年度科学技術人材育成補助金事業「科学技術人材育成のコンソーシアム構築事業」
生物機能開発学専攻の全講座			
環境循環系制御学専攻の全講座			
附属瀬戸内圏フィールド科学教育研究センター			

別添資料 9 : 教員活動実績調査概要

生物圏科学研究科教員活動の個人評価等について（基本指針）

1. はじめに

生物圏科学研究科は平成19年から教員活動状況報告書による調査を行っています。この報告書は教員の活動状況の把握や研究科の自己点検評価書作成に必要な教育・研究・社会貢献等の実績資料として蓄積してきました。広島大学は「研究大学強化促進事業」に採択されましたが、この事業では、研究力の現状について自己評価（強みと弱みの認識）を行い、それに基づいて研究力アップの方針を決めることが求められています。本学では「教員全員が自己の研究力を認識すること、優れた研究者を正しく評価して処遇すると同時に、不活性な教員に対しては問題点を明らかにして活動改善を図る」ために、教員活動の点数化・個人評価を行う方針が決定されました。一方、全国農学系学部長会議でも「農学系学術研究の評価」について検討されており、多くの大学で導入されている教員の個人活動評価について、その評価法についての情報交換がなされています。生物圏科学研究科では本学の方針に従い、従来の教員活動状況報告を発展させて、「教員活動の個人評価」の仕組みを構築します。

なお、この個人評価で得る実績は、従前の自己点検・評価報告書及び認証評価にかかる現況調査票などの組織活動実績基本データとして、非常に貴重なデータとなるため、ご理解とご協力をお願いいたします。

2. 基本方針

(1) 評価の方針

研究推進機構会議などの協議を通じて示された評価項目・方法や処遇への反映等の基本方針を参考に、部局内の特色ある活動や推進すべき活動にも配慮して、教育・研究・外部資金・社会活動・大学運営の評価項目及び評価基準を設定し、適切な業績評価を行うことを方針とします。

1) 対象者：

生物圏科学研究科及び生物生産学部に所属する専任教員（以下、「専任教員」）、特任教員及び新しく導入される年俸制教員を対象にします。

なお、特任教員については組織活動実績基本データに活用させていただきます。

2) 評価項目：

評価は以下の基本項目に基づき教員活動全般（毎年提出が義務付けられている「教員活動状況報告」に準拠）を対象に年度単位で行います。

- ・教育活動（学部・大学院の講義、博士課程学生の担当数、留学生数など）
- ・研究活動（学術誌論文数、国際研究活動、国際会議発表、受賞、知的財産など）
- ・外部資金獲得（科研費、受託・共同研究など）

(H26.9.17 研究科長室運営会議承認)

(H26.9.22 研究科教員会報告)

2

・社会活動（学会役員、国・地方公共団体等の委員など、国際・国内会議の組織、セミナー講師など）

・大学運営（全学委員、学部内の委員など）

なお、研究活動にかかる評価では、大学が掲げる研究力強化促進事業の推進から以下の指標を含めるものとします。

< 国際的指標 >

SCI(Science Citation Index)論文数、その内で被引用数が分野ごとの Top10%に入る論文数、国際共著論文・国際共同研究。

(2) 個人評価の点数化とその方法

1) 点数化の基準及び方法：

別表に掲げる「生物圏科学研究科 教員活動の個人評価基準」を基に、別に定めた「教員の個人活動評価実績調査票(以下、「調査票」)」に基づき、調査を行い、その回答を計算・集計します。なお、「教授」、「准教授・講師」と「助教」では職務権限・内容が異なることから、それぞれの配点基準を設けています。また、練習船教員は業務の特殊性を考慮し、別途評価基準を設けて点数化を行います。

「調査票」は部局の自己点検評価報告書のデータ収集を兼ねるため、入力フォームは、従来の様式を踏襲しつつ、新しく設けた評価基準に該当する項目を加えたもので行います。なお、新しく構築される予定の全学の教員活動状況調査システムについては、利用が可能となった段階から併用します。

< 以下略 >

別添資料 10：アドミッション・ポリシー（出典：生物圏科学研究科細則）

【アドミッション・ポリシー】

生物圏における多様な生物や諸現象およびフィールド科学に関心があり、次のような意欲と資質をそなえた大学院生を求めます。

- 1) 食料生産とそのための環境保全・修復の分野において、チャレンジ精神が旺盛である。
- 2) 生物の多様な機能の解明や有効利用に関心が高い。
- 3) 課題についての的確な思考力と解決能力をそなえている。
- 4) 知の体系に裏打ちされた倫理観をもっている。

別添資料 11：カリキュラム・ポリシー（出典：生物圏科学研究科細則）

博士課程前期	博士課程後期
<p>1) 研究科および専攻が目的とする食料・環境・応用生命科学分野の高度な専門知識と専門技術を、専攻が編成した講義、演習、実験実習により習得させる。</p> <p>2) 修士論文研究に積極的に取り組むことで、問題の理解と科学的な解決の方策、論理的思考、専門分野の先端的な知識と実験技術、科学倫理を学ばせる。</p> <p>3) 多様な学生が幅広い生物圏科学領域の科目を学ぶことができるように、各講義科目を1単位とし、基礎的科目と高度な水準の科目を編成する。</p> <p>4) 研究成果を国内外の学会等で発表することを推進し、プレゼンテーション能力やコミュニケーション能力を向上させる。</p> <p>5) 外国人特任教員による講義・演習をはじめとし、英語による講義・演習を積極的に取り入れる。</p>	<p>1) 独創的、かつ先端的な博士論文研究に取り組むことで、問題の発見と科学的な解決の方策、論理的思考、専門分野の深い知識と実験技術、科学倫理を学ばせる。</p> <p>2) 自立的に研究の構想、実験の実施、成果のまとめができる力を養い、自ら主体的に研究を展開することを習得させる。</p> <p>3) 研究の成果を国内外の学会や学術誌に発表することを推進し、プレゼンテーション能力と学術論文をまとめる力を高めさせる。</p>

別添資料 12：履修方法（出典：学生便覧）

博士課程前期	
1. 必修科目	10 単位
2. 選択必修科目	12 単位
・大学院基礎科目より 1 科目	1 又は 2 単位
・コア科目より	
・演習	2 単位
・実習	1 単位
・上記以外のコア科目	8 単位
3. 選択科目	8 単位以上
必修科目：特別研究（8 単位）と共同セミナー（A）（2 単位）	
選択必修科目：大学院基礎科目と専攻コア科目の講義、主指導教員指定の演習・実験実習	
選択科目：研究科内外の科目	

博士課程後期	
1. 必修科目	2 単位
2. 選択必修科目	2 単位
・演習	2 単位
3. 選択科目	4 単位以上
必修科目：共同セミナー（B）（2 単位）	
選択必修科目：主指導教員指定の演習	
選択科目：研究科内外の科目	

別添資料 13：講座・教育科目・授業科目の一覧表（出典：生物圏科学研究科学生便覧）

生物資源科学専攻 Department of Bioresource Science

講 座	教 育 科 目	授 業 科 目	
陸域動物生産学講座 Animal Science	家畜育種遺伝学 Animal Breeding and Genetics	家畜育種学 応用動物遺伝学	
	家畜生殖学 Animal Reproduction	家畜生殖細胞生理学 家畜生殖機能開発学	
	家畜飼養学 Animal Nutrition and Feeding	家畜飼養学 家畜栄養生理学	
	家畜管理学 Animal Behavior and Physiology	家畜環境生理学 家畜環境管理学	
	家畜生体機構学 Animal Histophysiology	家畜生体機構学 家畜機能調節学	
	講座共通	陸域動物生産学演習 陸域動物生産学実験実習	
	水圏生物生産学講座 Aquatic Biology	水族生理学 Fish Neurobiology	魚類神経生理学 神経行動学
		水族病理学 Aquatic Pathobiology	水族感染症学 水族病原微生物学 魚類免疫学
水族生態学 Benthos Ecology		水界動物生態学 餌料生物生態学	
水圏資源生物学 Biology of Aquatic Resources		水産資源生物学 亜熱帯魚類生態学	
水族生化学 Aquatic Biochemistry		水族生化学 応用生物化学	
水産増殖学 Aquaculture		水産資源培養学 水産応用増殖学	
講座共通		水圏生物生産学演習 水圏生物生産学実験実習	
食料資源経済学講座 Food and Resource Economics		食料生産管理学 Food Production Management	食料資源管理学 食料生産経済学
		食料市場学 Agricultural Marketing	食料消費経済学 食料流通経済学
		講座共通	食料資源経済学演習 食料資源経済学実験
	瀬戸内圏フィールド科学講座 Field Science in Setouchi Areas	陸域生物圏フィールド科学 Terrestrial Field Science	家畜生産システム学 人間動物関係論
海域生物圏フィールド科学 Aquatic Field Science		海洋生物多様性論 水族環境生理学	
講座共通		瀬戸内圏フィールド科学演習 瀬戸内圏フィールド科学実習	

生物機能開発学専攻 Department of Biofunctional Science and Technology

講 座	教 育 科 目	授 業 科 目
分子生命開発学講座 Molecular and Applied Biosciences	免疫生物学 Immunobiology	応用免疫学 分子免疫学
	酵素化学 Enzyme Chemistry	植物分子生命科学 蛋白質機能利用学
	微生物機能学 Microbial Biochemistry	遺伝子制御学 微生物機能利用学 分子細胞機能学
	生態機能物質化学 Ecological Biochemistry	生物間情報物質論 天然生物活性物質論
	生体分子機能学 Ecological Biochemistry	遺伝子機能構造学 蛋白質構造論
	応用分子細胞工学 Applied Technology for Molecular and Cellular Biology (林原生物化学研究所)	細胞機能開発学 応用生命工学 分子生物工学
	講座共通	分子生命開発学演習 分子生命開発学実験

食資源科学講座 Food Science and Biofunctions	海洋生物資源化学 Marine Bioresource Chemistry	海洋生化学資源学 水産食品衛生化学
	動物資源化学 Food Chemistry	動物資源生化学 食品機能化学
	食品物理学 Biomolecular Physical Chemistry	食資源物理学 食資源物理化学
	食品工学 Food Engineering	食品工学 食品プロセス工学
	食品衛生学 Food Microbiology and Hygiene	食品衛生微生物学 食品病原遺伝子学
	分子栄養学 Molecular Nutrition	栄養生化学 食品分子生物学
	醸造資源開発学 Brewing Science and Technology (酒類総合研究所)	食資源環境保全学 醸造微生物工学 醸造資源利用学
	講座共通	食資源科学演習 食資源科学実験

環境循環系制御学専攻 Department of Environmental Dynamics and Management

講 座	教 育 科 目	授 業 科 目	
環境予測制御論講座 Modeling and Management of Environmental Dynamics	陸域・大気循環予測論 Land-Atmosphere Interactions	陸域・大気循環予測論Ⅰ (温暖化・有害物質循環論) 陸域・大気循環予測論Ⅱ (二酸化炭素循環論)	
	気水圏循環変動予測論 Atmosphere-Hydrosphere Interactions	気水圏循環変動予測論Ⅰ (気水圏物質循環計測論) 気水圏循環変動予測論Ⅱ (気水圏化学計測論)	
	水域循環制御論 Aquatic Ecosystem Management	水域循環制御論Ⅰ (栄養塩循環制御論) 水域循環制御論Ⅱ (食物連鎖系物質循環論) 水域循環制御論Ⅲ (沿岸海洋学)	
	陸域循環制御論 Nutrient Cycling in Terrestrial Ecosystem	陸域循環制御論Ⅰ (植物栄養循環制御論) 陸域循環制御論Ⅱ (植物機能制御論) 陸域循環制御論Ⅲ (植物無機栄養学)	
	海洋環境制御論 Management of Coastal Marine Environment (産業技術総合研究所中国センター)	海洋環境制御論Ⅰ (瀬戸内海環境制御論) 海洋環境制御論Ⅱ (海域負荷制御論) 海洋環境制御論Ⅲ (海域機能制御論)	
	陸域生態系制御論 Land Ecosystem Management (農業・食品産業技術総合研究機構 近畿中国四国農業研究センター)	陸域生態系制御論Ⅰ (土壌環境制御論) 陸域生態系制御論Ⅱ (耕地気象制御論) 陸域生態系制御論Ⅲ (生物環境制御論)	
	講座共通	環境予測制御論演習 環境予測制御論実習	
	環境評価論講座 Assessment of Environmental Dynamics	海洋生態系評価論 Marine Ecosystem Dynamics	海洋生態系評価論Ⅰ (海洋生態系評価論) 海洋生態系評価論Ⅱ (食物連鎖機構論) 海洋生態系評価論Ⅲ (海洋微生物動態論)
		海洋生態系進化論 Marine Ecosystem and Evolution (海洋研究開発機構)	海洋生態系進化論Ⅰ (深海生態学) 海洋生態系進化論Ⅱ (深海生物学) 海洋生態系進化論Ⅲ (海洋共生生物学)
		植物環境評価論 Evaluation of Plant Environment	植物環境評価論Ⅰ (植物環境評価論)
		植物環境分析学 Plant Environmental Science	植物環境分析学Ⅰ (土壌環境評価論) 植物環境分析学Ⅱ (植物養分循環評価論)
		微生物環境評価論 Assessment of Microbial Environment	微生物環境評価論Ⅰ (土壌微生物環境評価論)
講座共通		環境評価論演習 環境評価論実習	

別添資料 14：教育記録システム（eラーニングポートフォリオ）の概要

はじめに



教育記録システムとは

教育記録システム（ラーニングポートフォリオ）は、学生の学習過程や学習成果に関する資料や情報を記録し、省察するためのものです。これを Web 上に載せ、eラーニングポートフォリオとして構築しました。

多様なバックグラウンド・多様な目的を持った学生が設定した到達目標を確実に成就するために、学生と主・副指導教員が Web 上で、講義の選択状況、研究の進捗状況、論文の準備状況などを常に記録・確認できるようにしています。

学習の初めに、主・副指導教員の指導を受けて個々の学生の修了時点の到達目標を設定し、ステップごとおよび修了判定時期に、最初の目標にどのくらい到達したかの省察（自己評価）を学生自身で行って下さい。学生の省察に対する教員コメントも記録します。

このシステムは、Web 上で使用するものなので、研究データの記録、学生からの質問や相談、それに対する教員からの回答や助言、各ステップでの省察を、時間・場所を問わずに記録することができます。



学生

自己目標の明確化

各セメスター
終了時に
面接実施



複数指導教員

指導目標の明確化

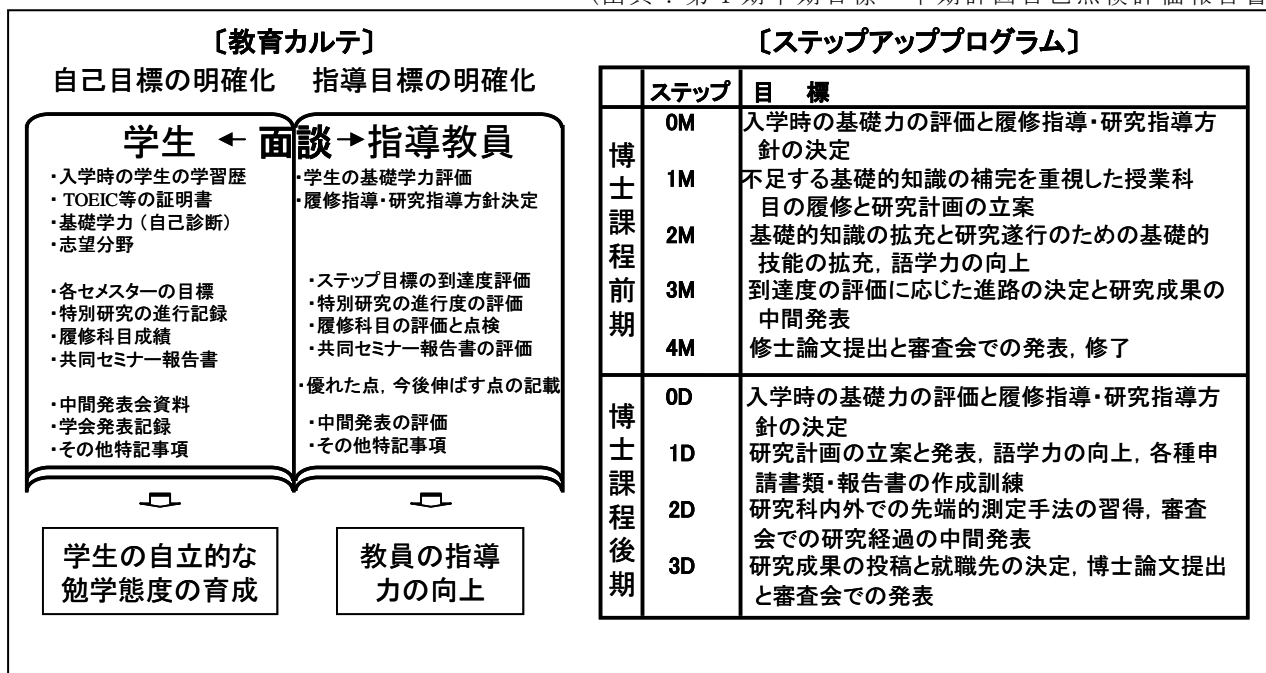
<ul style="list-style-type: none"> ・入学時の学生の学習歴 ・TOEIC 等の証明書 ・基礎学力（自己診断） ・志望分野 		<ul style="list-style-type: none"> ・学生の基礎力評価 ・履修指導・研究指導の方針決定
<ul style="list-style-type: none"> ・各セメスターの目標 ・特別研究の進行記録 ・履修科目成績 ・共同セミナー報告書 		<ul style="list-style-type: none"> ・ステップ目標の到達度評価 ・特別研究の進行度の評価 ・履修科目の評価と点検 ・共同セミナー報告書の評価
<ul style="list-style-type: none"> ・中間発表会資料 ・学会発表記録 ・その他特記事項 ・到達目標の設定と自己評価 		<ul style="list-style-type: none"> ・中間発表の評価 ・僅れた点、今後伸ばすべき点の記載 ・到達目標の指導と評価

学生の自立的な修学能力の育成

教員の指導力の向上

別添資料 15：教育カルテとステップアッププログラムによる体系的な教育課程

(出典：第1期中期目標・中期計画自己点検評価報告書)



別添資料 16：ステップアッププログラムによる講義の授業時間割（出典：研究科作成）

平成26年度 前期(A) 生物圏科学研究科授業時間割

曜日	時限	生物資源科学専攻	生物機能開発学専攻	環境循環系制御学専攻
月	1・2	分子内分泌学(島田): C309	水圏毒物学(浅川): C308 生態情報物質学(大村): 総K208	
	3・4	基礎家畜飼養学(谷口・小櫃): C308 水産資源生態学(富山): C309	天然生物活性物質論 I (太田): 総K207	
	5・6			
	7・8			
	9・10			
火	1・2	栽培漁業学入門(長澤): C309	食資源物理学 I (上野): C308 免疫生物学(古澤): C310 栄養生化学(加藤): C201	植物養分循環評価論入門(富永): C205
	3・4	家畜環境管理学(豊後): B516 水族感染症学I (中井): C315 食料資源管理学(山尾): B211	食品物性工学(川井): C308	微生物環境評価論演習(和崎): C309
	5・6			
	7・8			
	9・10			
水	1・2	General Biosphere Science (1) (Liao): B209		
	3・4	家畜生体機構学(吉村・磯部): C310 食料消費経済学(田中): B211	水圏生物資源化学(堀): C308	海洋生態系評価論入門(上): C309
	5・6	家畜育種学(都築): C301	植物分子生命科学(江坂): C308	
	7・8			
	9・10	Practical work on writing reports and presentation (1) (Liao): B209		
木	1・2	餌料生物生態学(河合): C309		植物栄養生態学(実岡): C310
	3・4	科学討論演習I (吉田): C310	基礎分子生物学(水田): C308 食品衛生微生物学 I (中野): C309	気水圏物質循環論 I (佐久川): 総J303
	5・6			
	7・8			水圏生態環境学入門(山本): C309
	9・10			温暖化・物質循環論入門(戸田): 総J302
金	1・2	人間動物関係学(谷田): C309	動物資源生化学 I (田辺): C308 生体高分子科学A(手島): 総J303	
	3・4	水族分子生物学入門 (国吉): C201	遺伝子機能構造学概論(清水): 総J301	
	5・6			
	7・8			海洋生態系数値解析学本編(橋本): C310
	9・10			
集中講義		陸域動物生産学実験実習 食料資源経済学実験 家畜生殖細胞利用学実験実習(前田・島田)	分子生命開発学実験 食資源科学実験	環境予測制御論実習 環境評価論実習

■ 専門基礎科目

□ 専門科目

■ 実践科目

別添資料 17：英語で行う講義科目一覧（出典：研究科作成）

1	水圏生態環境学入門編 Aquatic Environmental Ecology: Introduction	前期A, 木7-8	山本 民次 T. Yamamoto, Prof.
2	水圏生態環境学応用編 Aquatic Environmental Ecology: Advanced	前期B, 木7-8	山本 民次 T. Yamamoto, Prof.
3	食物連鎖機構論 Marine Food Web Dynamics	後期A, 火3-4	長沼 毅 T. Naganuma, Assoc. Prof.
4	食物連鎖機構論実践演習 Marine Food Web Dynamics (Practical work)	後期B, 火3-4	長沼 毅 T. Naganuma, Assoc. Prof.
5	海洋微生物動態論 Marine Microbial Dynamics	後期A, 木1-2	小池 一彦 K. Koike, Assist Prof.
6	海洋微生物動態論実践演習 Marine Microbial Dynamics (on-board practice)	後期B, 木1-2	小池 一彦 K. Koike, Assist Prof.
7	Introduction to Environmental Issues in Japan	後期B, 水5-6	中坪 孝之 T. Nakatsubo, Prof.
8	General Biosphere Science (1) Benthos Ecology	前期AB, 水1-2	河合 幸一郎 K. Kawai, Prof.
9	General Biosphere Science (2) Animal Foraging Ecology	後期AB, 水1-2	斉藤 英俊 H. Saito, Assoc. Prof.
10	分子細胞機能学A Molecular Cell Science: Strategy for Environmental Adaptation-A	後期A, 月3-4	三本木 至宏 Y. Sambongi, Prof.
11	分子細胞機能学B Molecular Cell Science: Strategy for Environmental Adaptation-B	後期B, 月3-4	三本木 至宏 Y. Sambongi, Prof.
12	Biosphere Science (1)	前期	Lawrence Liao, Lecturer
13	Biosphere Science (2)	後期	Lawrence Liao, Lecturer
14	魚類社会生物学入門 Fish Sociobiology: Introduction	後期A, 木5-6	坂井 陽一 Y. Sakai, Prof.
15	魚類社会生物学特論 Fish Sociobiology: Advance	後期B, 木5-6	坂井 陽一 Y. Sakai, Prof.
16	浅海魚類生産学 Seagrass Bed Ecology (Subject is not fixed yet)	後期A, 月3-4	小路 淳 J. Shoji, Assoc. Prof.
17	沿岸生物圏フィールド科学演習 Seminar in Coastal Field Science	後期B, 月3-4	小路 淳 J. Shoji, Assoc. Prof.
18	Introduction on the Biogeochemical Marine Systems	後期A, 木3-4	三瓶 真 M. Sanpei Assis. Prof.
19	Advanced Biogeochemical Marine Systems	後期B, 木3-4	三瓶 真 M. Sanpei Assis. Prof.
20	気水圏物質循環論 I Marine and Atmospheric Chemistry I	前期A, 木3-4	佐久川 弘 H. Sakukawa, Prof.
21	気水圏物質循環論 II Marine and Atmospheric Chemistry II	前期B, 木3-4	佐久川 弘 H. Sakukawa, Prof.

大学院共通科目として提供している英語科目

22	Practical work on writing reports and presentation(1)	前期, 水9-10	Lawrence Liao, Lecturer
23	Practical work on writing reports and presentation(2)	後期, 水9-10	Lawrence Liao, Lecturer

生物圏において、常時英語で開設している科目

別添資料 18：大学院生の出身校別割合（出典：研究科作成）

博士課程前期(11月1日現在)

	H22年度			計	H23年度			計	H24年度			計	H25年度			計
	本学	その他	計		本学	その他	計		本学	その他	計		本学	その他	計	
生物資源科学専攻	21	12	33	22	4	26	16	5	21	21	7	28				
生物機能開発学専攻	22	13	35	24	6	30	29	8	37	26	10	36				
環境循環系制御学専攻	13	7	20	5	5	10	14	5	19	10	5	15				
合計	56	32	88	51	15	66	59	18	77	57	22	79				

博士課程後期(11月1日現在)

	H22年度			計	H23年度			計	H24年度			計	H25年度			計
	本学	その他	計		本学	その他	計		本学	その他	計		本学	その他	計	
生物資源科学専攻	9	4	13	5	6	11	4	3	7	10	2	12				
生物機能開発学専攻	4	3	7	3	1	4	5	0	5	4	3	7				
環境循環系制御学専攻	3	2	5	7	2	9	2	3	5	0	1	1				
合計	16	9	25	15	9	24	11	6	17	14	6	20				

別添資料 19：社会人院生数の推移（出典：研究科作成）

博士課程前期（各年度 5 月 1 日）

	22 年度	23 年度	24 年度	25 年度
生物資源科学専攻	1	1	1	2
生物機能開発学専攻	0	0	0	0
環境循環系制御学専攻	0	0	1	1
合 計	1	1	2	3
割 合（％）	0.6	0.6	1.4	4.7

博士課程後期（各年度 5 月 1 日）

	22 年度	23 年度	24 年度	25 年度
生物資源科学専攻	15	16	18	15
生物機能開発学専攻	5	6	7	5
環境循環系制御学専攻	9	7	6	5
生物圏共存科学専攻*	5	2		
生物資源開発学専攻*	3	2		
合 計	37	33	31	25
割 合（％）	39.8	34.0	40.3	36.7

*は旧専攻

別添資料 20：社会人特例措置対象者数（出典：研究科作成）

	22 年度	23 年度	24 年度	25 年度
博士課程前期	0	0	1	1
博士課程後期	8	6	4	2
計	8	6	4	2

*大学院設置基準第 14 条の特例(大学院の課程においては、教育上特別の必要があると認められる場合には、夜間その他特定の時間又は時期において授業又は研究指導を行うなどの適当な方法により教育を行うことができる)。

別添資料 21：国際交流協定締結校一覧（出典：研究科作成）

大学名	国名	協定締結日	協定の種類	交流内容
ビサヤ州立大学 農学部	フィリピン	H23.12.9	部局間	教員交流、学生交流、共同研究、学術情報交換等
アイルランガ大学	インドネシア	H23.4.12 H24.8.2	部局間 大学間	
東海大学 農学院	台湾	H21.10.9	部局間	
ガジャマダ大学 農学部	インドネシア	H19.12.19	部局間	
ノンラム大学	ベトナム	H18.12.27	部局間	
釜慶大学校水産科学大学	大韓民国	H19.3.21	部局間	
済州大学校	大韓民国	H18.8.21	大学間	
カセサート大学	タイ	H14.7.15	大学間	
クイーンズランド大学 資源農獣医学部	オーストラリア	H11.1.21	部局間	
四川農業大学	中華人民共和国	H7.3.14, H16.10.21	部局間 大学間	
ペラデニヤ大学 農学部	スリランカ	H5.3.22	部局間	
バングラデシュ農業大学	バングラデシュ	H21.3.19	部局間	
フィリッピン大学 ビサヤ校	フィリピン	H25.3.25	部局間	
西北農林科技大学	中華人民共和国	H25.3.14	部局間	

別添資料 22：シラバスの一例（出典：学生状況情報システムもみじ）

年度	2013年度	開講部局	生物圏科学研究科博士課程前期		
講義コード	W6509131	科目区分	専門的教育科目		
授業科目名	家畜生体機構学				
授業科目名 (フリガナ)	カチクセイタイキコウガク				
英文授業科目名	Animal histology and physiology				
担当教員名	吉村 幸則,磯部 直樹				
担当教員名 (フリガナ)	ヨシムラ ユキノリ,イソベ ナオキ				
研究室の場所	生物生産学部 B310	内線番号	7958		
E-mailアドレス	yyosimu@hiroshima-u.ac.jp				
開講キャンパス	東広島	開設期	1年次生 前期		
曜日時限	水 1時限, 2時限	講義室	生C310		
授業の方法	講義	授業の方法 【詳細情報】	講義中心、学生の発表		
単位	1	週時間	2	使用言語	
対象学生	生物圏科学研究科院生				
学修の段階					
学問分野(分野)	99：指定なし				
学問分野(分科)	99：指定なし				
授業のキーワード	自然免疫と獲得免疫, 生殖免疫, 内分泌, 鳥類の産卵, 組織・生理学				
教職専門科目		教科専門科目			
プログラムの中での この授業科目の 位置づけ					
到達度評価の評価項目					
授業の目標・概要等	動物の体を構成する臓器（器官）群はそれぞれの固有の機能を発現するが、各器官は互いに機能的に連絡関係を形成して、バランス良く機能するように調節されている。この機能が恒常性を保ちつつ正常に営まれることにより、健全な家畜の成長、乳や卵を生産する機能が働く。生体の恒常性は神経、内分泌、免疫系のクロストークにより保たれる。内分泌系はこの生産機能の調節に深く関わり、また免疫系は宿主防御に働いて固体の健康維持と生産物の微生物汚染抑制に重要な役割を果たす。ここでは、家畜と家禽の生産に関わる生理機能を学びつつ、これに関わる内分泌機能と免疫機能を理解する。				
授業計画	<p>家畜と家禽の生産に関わる生理機能、内分泌機能、免疫機能の基礎を講義し、講義の内容に関連する最近の学術情報についてプレゼンテーションと質疑を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. 内分泌器官の構造と機能。 3. 産卵の機構と内分泌。関連する器官の構造と機能。 4. 自然免疫と感染防御機能に関わる組織の構造と機能。 5. 獲得免疫と感染防御に関わる組織の構造と機能。 6-7. 免疫・内分泌に関連するトピックスの受講生によるプレゼンテーション。 8. まとめ <p>内分泌と免疫器官に関する構造と機能に関する講義行い、関連するキーワードやトピックについて、プレゼンテーションを行う。これに関するレポートを提出する。</p>				
教科書・参考書等	講義に関連するプリントを適宜配布する。 参考書：図説動物形態学, 福田勝洋編, 朝倉書店, 2006				
授業で使用する メディア・機器等	テキスト, 配付資料				
予習・復習への アドバイス	「図説動物形態学, 福田勝洋編, 朝倉書店, 2006」を参考にすることが望ましい。				
履修上の注意 受講条件等	受講者は期間中に1人1回程度プレゼンテーションし、その情報に関連して全員で質疑することを予定しているので、これに積極的に取り組むこと。				
成績評価の基準等	レポート80%, プレゼンテーションと質疑への取り組み20%。				

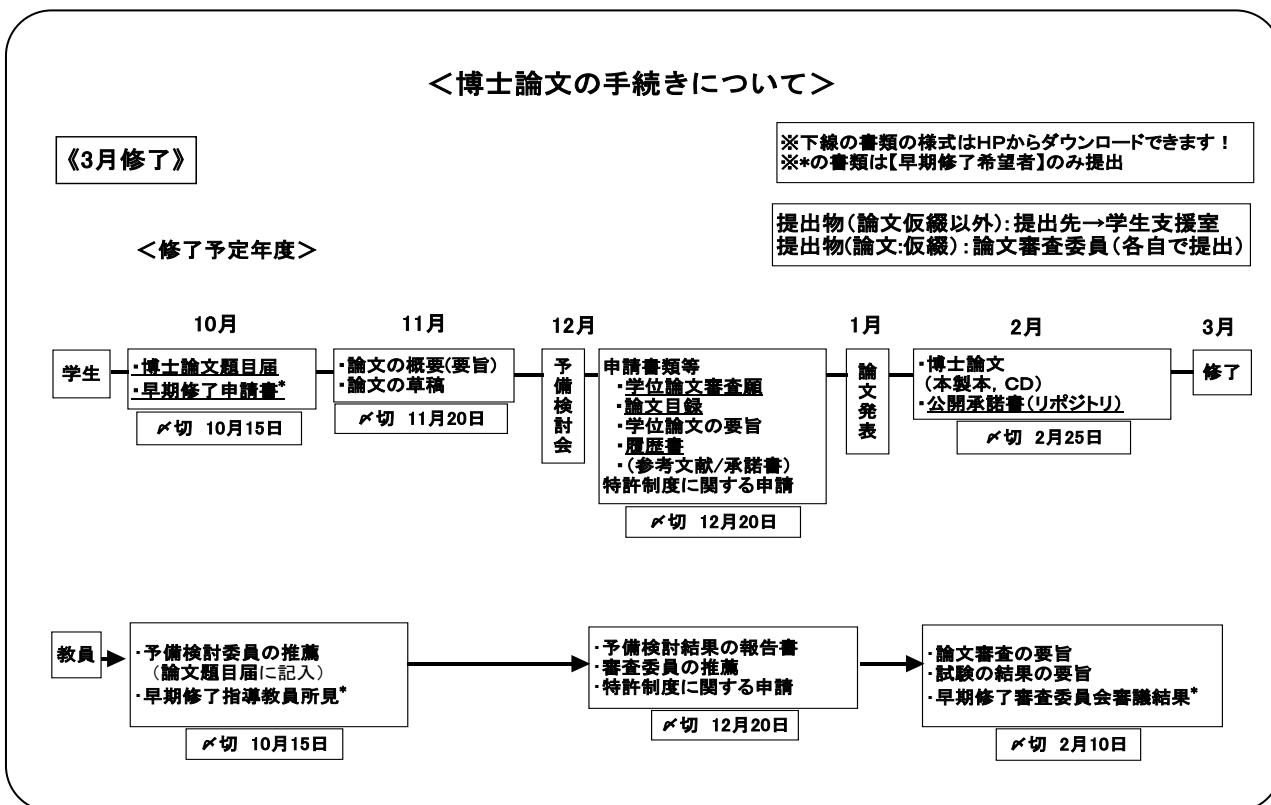
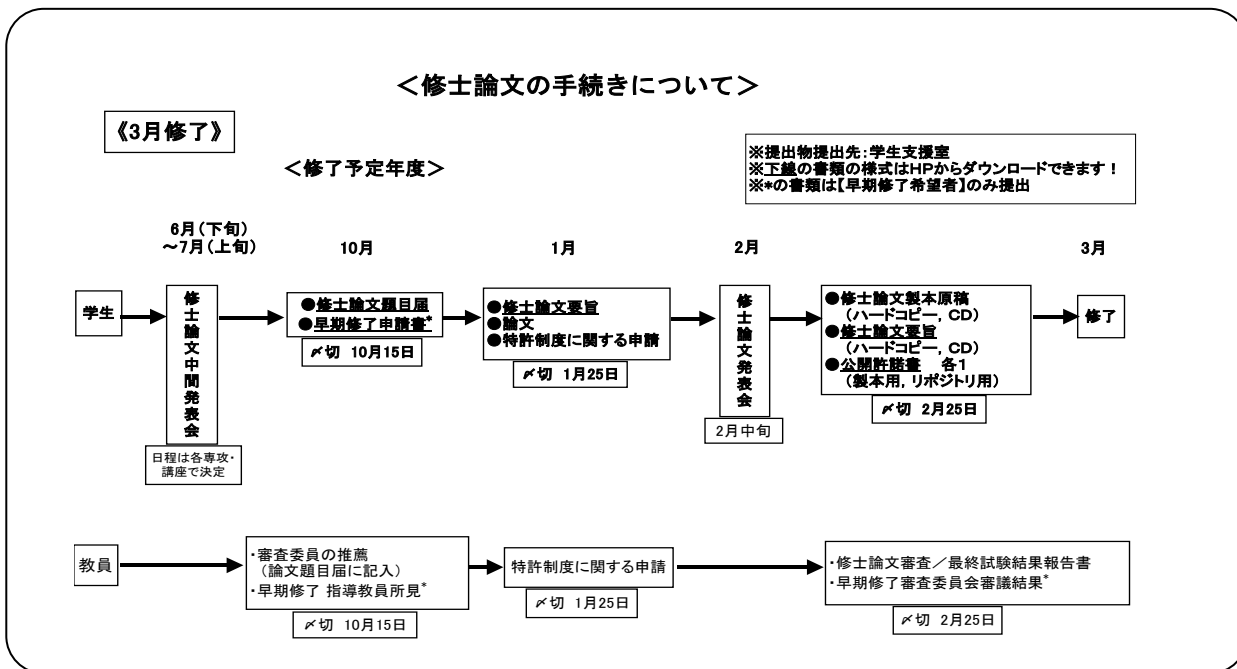
別添資料 23：研究科のディプロマ・ポリシー（出典：研究科作成）

博士課程前期	博士課程後期
<p>所定の年限在学し、研究指導を受け、所定の単位数を修得し、かつ、本研究科が行う修士論文の審査及び試験に合格した者に、修士(農学)または修士(学術)の学位を与える。博士課程前期修了には下記の分野において、幅広い専門知識と研究技術および技術者倫理等を習得し、研究成果を国内外の学会等で発表するとともに、論文作成力、プレゼンテーション力を有することを目安とする。</p>	<p>所定の年限在学し、研究指導を受け、かつ、本研究科が行う博士論文の審査及び試験に合格した者に、博士(農学)または博士(学術)の学位を与える。博士課程後期修了には下記の分野において、研究を自立して行うために必要な幅広い専門知識と研究技術、専門分野における問題の理解と科学的な解決の方策、論理的思考法、高いコミュニケーション能力を通して、研究成果をまとめる力をそなえていること、さらに、自立した研究者・高度専門技術者として研究の成果を国内外の学会や学術誌に発表できる、プレゼンテーション能力や学術論文をまとめる力をそなえていることを目安とする。</p> <p>1) 食料・環境・応用生命科学分野における生命現象の機構、生物資源と生物機能の高度な活用 2) 地域と世界の食料と環境問題、環境と調和した持続的な生物生産活動</p>

別添資料 24：修了要件（出典：広島大学生物圏科学研究科細則）

<p>(博士課程前期の修了要件)</p> <p>第 13 条 博士課程前期の修了の要件は、当該課程に 2 年以上在学し、別表に定める授業科目を履修の上 30 単位以上修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、修士論文を在学期間中に提出してその審査及び最終試験に合格することとする。ただし、在学期間に関しては、教授会の議を経て研究科長が優れた業績を上げたと認める者については、当該課程に 1 年以上在学すれば足りるものとする。</p> <p>2 第 1 項の規定にかかわらず、大学院規則第 25 条の 2 第 1 項に定める博士課程リーダー育成プログラムを履修する者は、修士論文の審査及び最終試験に合格することに代えて、次に掲げる試験及び審査に合格することとすることができる。</p> <p>(1) 専攻分野に関する高度の専門的知識及び能力並びに当該専攻分野に関連する分野の基礎的素養であって当該博士課程前期において修得し、又は涵養すべきものについての試験</p> <p>(2) 博士論文に係る研究を主体的に遂行するために必要な能力であって当該博士課程前期において修得すべきものについての審査</p> <p>(博士課程後期の修了要件)</p> <p>第 14 条 博士課程後期の修了の要件は、当該課程に 3 年以上在学し、別表に定める授業科目を履修の上 8 単位以上修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、博士論文を在学期間中に提出してその審査及び最終試験に合格することとする。ただし、在学期間に関しては、教授会の議を経て研究科長が優れた研究業績を上げたと認める者については、当該課程に 1 年(2 年未満の在学期間をもって修士課程又は博士課程前期を修了した者)にあつては、当該在学期間を含めて 3 年)以上在学すれば足りるものとする。</p>
--

別添資料 25：学位論文の作成プロセス（出典：生物圏科学研究科学生便覧）



別添資料 26：新入生ガイダンス行事日程表（出典：研究科作成）

平成26年4月 新入生ガイダンス行事日程表

月日（曜）：平成26年4月4日（金） 13時～

場 所：C314講義室


時 間	担 当	業 務 内 容
13:00～13:10	研究科長	研究科長挨拶・教員紹介
13:10～13:20	研究科長	研究倫理について
13:20～13:25	谷田教授	緑翠会について
13:25～13:30	院生会会長 新居	院生会について
13:35～14:15	教育・情報設備管理委員会 坂井教授	教育記録システムについて
14:15～14:30	学生支援室	学生証受領書回収
14:30～14:50	ハラスメント相談室 横山教授	ハラスメントについて
14:50～15:10	学生支援室	<ul style="list-style-type: none"> ・授業開始日等について ・研究題目届について ・履修方法等について ・集中講義の履修について ・論文手続について ・教育職員免許状の取得について ・住所等の変更について ・日本学生支援機構大学院奨学生の申し込みについて ・学生への連絡について ・学生証について ・校内通行証・パスカードについて ・学生教育研究災害障害保険、付帯賠償責任保険について ・健康保健及び相談施設について ・証明書等の発行について ・HPの利用について
15:10～15:30	安全衛生教育委員会 小池准教授	安全衛生教育について (他大学から入学した者及び留学生対象)
15:30～	留学生担当教員	留学生との懇談（留学生対象）

別添資料 27：大学院生に対する修学・研究支援（出典：生物圏科学研究科 HP）

[English](#)

大学院生への修学・研究支援

生物圏科学研究科では、博士課程後期学生への年間授業料半額支援をはじめとして、在学生へのさまざまな支援事業を行っています。詳細は下記を参考にしてください。

支援の名称	支援の内容
1 社会人ドクター修学支援 【遠隔地からの通学支援】 (研究科長裁量経費による支援)	<ul style="list-style-type: none"> ・広島県外に在住する博士課程後期社会人学生が通学するための交通費を支援します。 ・対象となる方は、所属企業、その他から経費の支給を受けていない博士課程後期社会人学生です。 (ただし、国費・政府派遣外国人留学生は含みません。) ・支援額は実費相当額で、一人当たり1年度内に20万円を限度とします。 <p style="text-align: right;">詳細はこちら</p>
2 ティーチング アシスタント (TA)	<ul style="list-style-type: none"> ・TAは大学院生が、研究科教員の教育や社会貢献活動を補佐するものです。経済的支援に加えて、TA自身の指導者、助言者としてのトレーニングをする機会ともなるものです。 ・指導教員を通じて申請されます。
3 リサーチ アシスタント(RA) (*この制度は毎年度見直すこととしています)	<ul style="list-style-type: none"> ・RAは博士課程後期の学生が、研究科教員の研究プロジェクトの実施を補佐するもので、年間授業料の半額相当額の給与を支給します。RA自身の研究トレーニングの意味もあります。 ・募集は1年に2回で、指導教員を通じて申請されます。 (ただし、国費・政府派遣外国人留学生、社会人特別選抜入学者、標準修業年限を超える在籍者、学振特別研究員は含みません。) <p style="text-align: right;">平成24年度の支援の詳細はこちら</p>
4 同窓会「緑翠会」による学生への支援	<ul style="list-style-type: none"> ・緑翠会会員の学生に対して以下の支援を行います。 1) 学部生の国内および国際学会での発表に対する支援 2) 大学院生の国際学会での発表に対する支援 3) 災害や特別な事情により経済的に困窮している学生に対する一時的な経済支援 <p>詳細は緑翠会事務局（A棟204号室）にお問い合わせ下さい。 (TEL: 082(424)7991 / Email: ryokusuj@hiroshima-u.ac.jp) ※@は半角に変換してください。</p>
5 国際会議発表・インターンシップ支援 Financial support for international scientific conference / internship abroad * Click here for more info. in English.	<p>海外で開催される国際学会で発表する場合やインターンシップを行う場合の支援を行います。</p> <p>We offer travel grant for international scientific conference, if you present your research activities, and also support for internship abroad.</p> <p>現在、平成26年度（平成27年3月31日帰国予定まで）の派遣を募集しています。 (申請〆切：平成26年5月30日（金）)</p> <p>At this moment, travel grant for international scientific conference and internship abroad (The student must come back to Japan by March 31, 2015) is available. [Closing date for application: Fri. May 30, 2014]</p> <p> 申請方法等の詳細はこちら</p> <p><u>(申請書類)</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・申請書（日本語） (Word / PDF) ・申請書（Application form / English） (Word / PDF) ・指導教員評価書 (Word / PDF) <p><u>(出国前提出書類)</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・国際会議日程表 (Word / PDF) ※記入例 (PDF) <p><u>(帰国後提出書類)</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・出張報告書 (Word / PDF) ※記入例 (PDF) ・発表報告書 (Excel / PDF) / インターンシップ報告書 (Excel /

		PDF)
	国内	平成26年度の支援はありません。 No support is available in the academic year of 2014.
6	英語論文校閲支援 Proofreading support of research paper written in English * Click here for more info. in English.	<p>筆頭著者となる英語論文について、1件あたり3万円を限度に校閲支援を行います。 We accept applications for financial support to proofreading expense. The applicable conditions are as follows; 1) An applicant should be the first author of the proofreading paper. 2) An adopted proofreading will be supported up to 30,000 yen per one.</p> <p>現在、平成26年度の申請を募集しています。 Now we are accepting the application in 2014.</p> <p>支援を希望する場合は<u>指導教員と相談の上、申請書を学生支援室に提出して下さい。</u> If you want to apply, we may suggest you to submit an application form <u>to the Student Support Office after mutual consent with your supervisor.</u></p> <p><u>提出締切：平成26年6月16日（月）</u> <u>Application closing date: June 16, 2014 (Mon.)</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 申請書 / 日本語 (Word / PDF) ・ Application form / English (Word / PDF) <p>* 支援の対象となる論文は、申請者本人が筆頭著者となるもので、平成26年4月1日以降に校閲を依頼し、平成27年3月31日までに完了したものに限り ます。(個人が支払いを立て替えた場合は、領収書日付が3月31日まで のものとなります。) * A paper supported must be one, in which an applicant himself/herself is a first author. A paper supported must be sent for proofreading after April 1, 2014, and delivered by March 31, 2015 (Date of delivery is before March 31). (When the proofreading expense is paid personally, the receipt must be dated before March 31.)</p> <p>詳細は学生支援グループ（C棟203号室）にお問い合わせ下さい。 (TEL: 082(424)7908 / Email: sei-daigakuin-sien@hiroshima-u.ac.jp ※@は半角に変換してください。) For further details, please ask the Student Support Group. (C building Room 203) (TEL: 082(424)5044 / Email: sei-daigakuin-sien@hiroshima-u.ac.jp ※Please change @ into half size of character.)</p>
7	社会人学生授業料 半額支援 (研究科長 裁量経費による支援)	広島大学が実施している成績優秀学生奨学制度（エクセレント・スチューデント・スカラシップ）に社会人枠を設け、優秀な社会人学生の後期授業料を免除します。

別添資料 28 : 大学院生への講義・研究指導等に関するアンケート (平成 24・25 年度分)
(出典 : 研究科作成)

博士課程前期学生アンケート						
質問	年度	大変満足	ほぼ満足	多少不満	大変不満	未回答
問 2 生物圏科学研究科博士課程前期の講義科目は満足できましたか？	H24	12	35	5	0	0
	H25	7	30	7	1	0
問 4 あなたが受けた生物圏科学研究科博士課程前期の講義科目は現在役立っていますか？	H24	15	26	10	1	0
	H25	9	29	5	2	0
問 5 あなたが受けた生物圏科学研究科博士課程前期の講義科目は今後役立つと思いますか？	H24	14	28	9	0	1
	H25	7	29	7	2	0
問 7 共同セミナーは満足できましたか？	H24	11	29	10	2	0
	H25	11	24	7	3	0
問 9 あなたが受けた共同セミナーは現在役立っていますか？	H24	6	30	15	1	0
	H25	5	22	16	2	0
問 10 あなたが受けた共同セミナーは今後役立つと思いますか？	H24	6	31	14	1	0
	H25	6	27	9	3	0
問 12 修士論文研究は満足できましたか？	H24	17	23	9	2	1
	H25	17	15	9	4	0
問 14 指導を受けた修士論文研究は現在役立っていますか？	H24	3	1	26	21	1
	H25	21	19	3	2	0
問 15 指導を受けた修士論文研究は今後役立つと思いますか？	H24	22	24	5	1	0
	H25	21	17	3	4	0
質問	年度	十分であった	普通	不足していた	未回答	
問 17 生物圏科学研究科では、博士課程前期の教育目標として高度専門技術者養成を掲げています。「学部講義と比較してより高度な科学知識の習得」について	H24	19	31	2	0	
	H25	17	22	6	0	
問 19 「実験計画立案能力の育成」について	H24	11	38	3	0	
	H25	13	30	2	0	
問 21 「幅広い実験技術の習得」について	H24	18	32	2	0	
	H25	15	24	6	0	
問 23 「実験結果の評価や解析技術の習得」について	H24	21	28	3	0	
	H25	15	27	3	0	
問 25 「プレゼンテーション技術の習得」について	H24	24	25	3	0	
	H25	25	18	2	0	
問 27 「論文作成能力の習得」について	H24	21	27	4	0	
	H25	17	23	4	0	
問 29 「科学英語論文作成能力の習得」について	H24	21	28	3	0	
	H25	22	22	1	0	
問 31 「企業などで行う現地研修(インターンシップ)」について	H24	20	28	4	0	
	H25	13	28	4	0	

博士課程後期学生アンケート						
質問	年度	大変満足	ほぼ満足	多少不満	大変不満	未回答
問 2 生物圏科学研究科博士課程後期の講義科目は満足できましたか？	H24	6	7	0	0	0
	H25	1	0	0	1	0
問 4 あなたが受けた生物圏科学研究科博士課程後期の講義科目は現在役立っていますか？	H24	6	7	0	0	0
	H25	2	0	0	0	0
問 5 あなたが受けた生物圏科学研究科博士課程後期の講義科目は今後役立つと思いますか？	H24	6	7	0	0	0
	H25	2	0	0	0	0
問 7 共同セミナーは満足できましたか？	H24	6	7	0	0	0
	H25	2	0	0	0	0
問 9 あなたが受けた共同セミナーは現在役立っていますか？	H24	8	4	1	0	0
	H25	2	0	0	0	0
問 10 あなたが受けた共同セミナーは今後役立つと思いますか？	H24	7	5	1	0	0
	H25	2	0	0	0	0
問 12 博士論文研究は満足できましたか？	H24	7	5	1	0	0
	H25	2	0	0	0	0
問 14 指導を受けた博士論文研究は現在役立っていますか？	H24	12	1	0	0	0
	H25	2	0	0	0	0
問 15 指導を受けた博士論文研究は今後役立つと思いますか？	H24	12	1	0	0	0
	H25	2	0	0	0	0
質問	年度	十分であった	普通	不足していた	未回答	
問 17 生物圏科学研究科では、博士課程後期の教育目標として高度専門技術者養成を掲げています。「修士課程と比較してより高度な科学知識の習得」について	H24	12	1	0	0	
	H25	2	0	0	0	
問 19 「実験計画立案能力の育成」について	H24	11	2	0	0	
	H25	2	0	0	0	
問 21 「幅広い実験技術の習得」について	H24	11	2	0	0	
	H25	2	0	0	0	
問 23 「実験結果の評価や解析技術の習得」について	H24	10	3	0	0	
	H25	2	0	0	0	
問 25 「プレゼンテーション技術の習得」について	H24	10	3	0	0	
	H25	2	0	0	0	
問 27 「論文作成能力の習得」について	H24	9	3	1	0	
	H25	2	0	0	0	
問 29 「科学英語論文作成能力の習得」について	H24	13	0	0	0	
	H25	2	0	0	0	
問 31 「企業などで行う現地研修（インターンシップ）」について	H24	6	5	2	0	
	H25	2	0	0	0	

別添資料 29：院生への教育・研究活動・教育目標に対するアンケート結果（自由記述）
（出典：研究科作成）

質問：博士課程前期の講義科目は満足できましたか？	
平成24年度	平成25年度
<ul style="list-style-type: none"> ・分野の違う授業も受けることができたのでよかった。 ・自身の研究に活かせる内容の講義が多かったから ・先生方が毎回講義を熱心に行ってくださいのため。 ・様々な分野について学べた。また、先生たちの講義への工夫がよかった。 ・様々な分野を学ぶことができたため。 ・履修したい科目は全て受けることができたため。 ・専門的な知識を修得できたため。 ・講義科目の種類はちょっとすくなかったからです。 ・学部とは異なり、より専門的な内容を学ぶことができた点が良かったです。 ・科目によって、内容の濃さが違いすぎる。 ・自分の専門分野にそった講義を自分で選択して受講できたから。 ・講義で学べるのはこのくらいだろうと思うから ・自分の専門分野以外の話は興味深かった。 ・専門知識を深めることができたから。 ・受講生の理解レベルに沿った内容であったため。 ・講義の難易度が低いため ・分野外の授業でも分かりやすく説明してくれることが多かった。 ・幅広く知識が身に付いたから。 ・研究の時間を圧迫しないよう配慮されながらも、十分な内容の講義が多かったから。 ・テストではなくレポートで評価してもらえらる。就活・研究で学問に融通が利かない場合が多いため。 ・興味のある科目を受け、自分の興味を満たすことができた。 ・選択科目から興味を持てる科目をとれたから。 ・興味のある分野について学ぶことができた。 ・先生が熱心 ・休講の時はもっと早く連絡が欲しいです。 ・講義が為になったから。 ・暗記ではなく、予習重視で授業中に理解を深められたから。 ・丁寧だったし、専門性が高くおもしろかったのだ。 ・ディベート、発表形式等、のちのち役立った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生物でも農業から環境分野まで、またフィールドも幅広がったので、視野を広くもつことができた。 ・英語の授業をもっと増やしてほしい。 ・研究に必要な知識の取得に役立ったから。 ・より専門的な知識を少人数で学べるのでよかった。 ・実践的なスキルが身に付く講義を受講したかった。系統樹の作り方や統計解析など。 ・留学生がいるとき英語をどの程度取り入れるか、というところで。 ・講義によってはためになるものもあったため。 ・研究にさしきわらない範囲で、十分な知識量が得られたと思うから。 ・幅広い領域の知識を身につけることができたからです。 ・発表を通じ、プレゼンテーション能力が向上した。 ・評価があいまい。 ・様々な分野に対して、より深い知見が得られたから。 ・いろいろ勉強ができて、すごく満足です。 ・適切なむずかしさで、勉強になりました。 ・意味のない講義が多い。 ・学部の時よりも踏み込んだ内容だったから。 ・素晴らしい先生方がそろっており、いろいろとお話を聞くことができたから。 ・知識はあったのですが、それらの活かし方を学べなかったからです。 ・色々と知見を広めることができました。 ・自らの発信する能力が身に付いたから。 ・学部生のときと内容があまり変わらなかったから。 ・自分の研究テーマに関連する講義が多かったため。 ・満足できる学習ができるため。 ・単位が取りやすくて良かった。 ・最新の情報やトレンドをわかりやすく説明していたから。 ・研究に関連するもの、先生方の専門知識に触れることができたから。 ・学部よりも深く専門分野を知ることができたため。 ・自分の世界が広がったので。 ・それぞれの科目の専門的な内容について学ぶ事が出来た。 ・研究生活が充実していたから。 ・授業内容は大変興味深かったが、大学院実験は必要ないと思います。 ・学部から発展した授業をうけることができたから。

<ul style="list-style-type: none"> ・自分の専攻に関連のある分野の詳しい基礎を学ぶことができた。 ・ほとんどの科目が学部の延長だった。研究手法など具体的に教えてほしい。 ・興味のある分野、先生の講義を受けられた。 ・専門以外の講義も充実していたため幅広く学べた。 ・いい勉強になりました。 ・将来に役立っていると思います。 ・幅広い知識を身につけることができた。 ・どの講義も興味深いものだったから。 ・体系だった「○○学」という講義がほしい。 ・英論文の訳などの形式のみならず、各専門の概要に触れる講義が増えても良いと思うため。 	<ul style="list-style-type: none"> ・先生方が出張などで授業が中止になることが多かったから。 ・専門的な講義を受けることができたから。 ・興味のある科目が多かったため。 ・多すぎ ・先生方の講義はとても面白く充実していたため。
--	---

修士論文研究は満足できましたか？

平成24年度	平成25年度
<ul style="list-style-type: none"> ・色々な機器を使用させてもらい、経験を積めたから。 ・当初の目標を達成できなかったから ・指導教員が大変熱心に指導に当たってくれたため。 ・指導教官のもとでいろいろやらせて頂けたから。 ・熱心な指導を受けることが出来たため。 ・不自由なく研究を進められたから。 ・やりたいことができ、ポジティブな結果も出すことができたため。 ・詳しく直す必要があるからです。 ・学部とは比べものにならないくらい研究に集中することができた。 ・できることなら、もう少し実験を行いたかった。 ・研究内容にあまり面白みを感じることができなかったから。 ・しっかり取りくむことができたから ・あまり指導されなかった。 ・まだ少しやりたかったことがあるが、一番解明したかったことは解明できたから。 ・努力したが目標に達しなかった。 ・大学院から研究室に所属したので、修士論文を形にすることができて良かったです。 ・機器や実験環境に不備があったため ・論文構成、言葉の難しさを学んだ。 ・自分が計画していたところまで研究を進めることができ、納得いった。 ・予測とは異なる実験結果も含めてうまく形にする事ができたから。 ・興味を持って取り組めた。 ・研究をはじめの前から考えていたデータを出すことができた。 ・うちのラボは素晴らしい設備が整っていたので。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分のやりたかった研究内容だったから。 ・論文を読み解く力、情報集収力、わかりやすく伝える力 e t c.多くの力を身に付けることができた。 ・切りの良いところまでまとめることができたから。 ・ていねいに指導していただきました。 ・統計解析について、より詳細に行いたい部分があったが、できなかった。 ・当然もっとうこうしていれば良かったというのはありましたが、指導教員、副指導の先生方にはよく指導していただいたと思う。 ・自分のやりたいことをできたため。 ・自分のためになったと思う。 ・多少結果は残せたが、最終目標まではまだまだ遠いから。 ・技術、知識、物の見方、考え方などを身につけることができたからです。 ・思うような結果が得られなかったから。 ・M2の12月頃にやりたい事が増えた。 ・楽しかった。 ・おもしろかったです。 ・目的を達成する方法を具体的、理論的に学べました。 ・自分のふがいなさで、中身がうすいものになってしまった。 ・もう少し実験をやって良い修士論文を書きたかったから。 ・指導教員の熱心な指導を受けられたから。 ・考え方がきたえられた。 ・自らの特性をよく分かっているままずるきてしまいました。 ・一区切りできる段階まで進展させることができた。 ・知識が身に付いたから ・指導教員が熱心に論文を添削して下さったから。 ・家庭の事情で研究の時間が削られたため。

<ul style="list-style-type: none"> ・ 様々な機会を与えてもらった。先生方に感謝。 ・ 自分自身の力不足 ・ 完成度が低い。 ・ 興味深く研究できた。 ・ 卒論の時より、データ解析に時間をかけられたから。 ・ 学部のところよりは満足できた。 ・ 自分のやりたいことが研究できた。 ・ 就職活動に大きく時間をとられたが、自分なりにやりとげたと思うため。 ・ 書きたいことを書ききれなかった。 ・ 興味のある生物を追跡し、新たな知見を得られたから。 ・ 解析にもう少し時間をかけるべきだった。 ・ 自分のやりたい研究はできなかったが、学んだものは大きい。 ・ 興味があったから ・ 研究したテーマは自分で興味を持っているから。 ・ 充実した研究生活が送れた。 ・ とても面白い研究内容だと思うから。 ・ 専門分野と言えるものができたことはよかった。 ・ 自身のやりたい研究を十分にできた。 ・ 内容を客観的に評価する能力に欠けていたため。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 様々な経験をつめた。 ・ やりたいことができた。 ・ 自分の興味のあったことについて研究できたから。 ・ 反省しかない。今後この反省をいかしていきたい。先生にも迷惑を。 ・ 自分のやりたい事ができ、ある程度完結できたため。 ・ 多くの経験から、多くの事を学んだ。 ・ まだ改善の余地があったのではないかと感じるため。 ・ 自分の為になったから。 ・ 元々自分の興味のある研究室に入ったので、大変おもしろかった。 ・ やってないから。 ・ 就職活動が長引き、研究できない期間があったから。 ・ 納得いく結果がでなかったため。 ・ もう少し実験する時間が欲しかったため。 ・ 連続した時間を確保したかった。 ・ もっと研究に打ち込みたかったから。
---	---

別添資料 30： 本学部で実施した FD の内容（出典：研究科作成）

年度	FD テーマ
22 年度	<ul style="list-style-type: none"> ・平成 22 年度からの教養教育の改革について ・Web 教育記録システムガイダンス第 1 回 ・Web 教育記録システムガイダンス第 2 回 ・e ポートフォリオを利用した学習の改善—熊本大学における e ポートフォリオの活用実践例 ・大学院生との意見交換会 ・Web 教育記録システムガイダンス第 1 回 ・男女共同参画意見交換会 ・ハラスメント研修会 ・発達障害について ・大学院 GP 講演会・総括報告会
23 年度	<ul style="list-style-type: none"> ・教育記録システムガイダンス ・学長との意見交換会 ・生物生産学部・生物圏科学研究科新人教育—教育編— ・理数学生育成支援事業について ・A E D 講習会 ・ハラスメント講習会 ・iPad 講習会 ・教育のレベル向上を目指す学部教育改革推進委員会の役割
24 年度	<ul style="list-style-type: none"> ・学長による教授会訪問 ・生物圏科学研究科教職員のための知財基礎セミナー ・地域連携推進事業の学内公募説明会 ・ハラスメント防止研修会 ・e ポートフォリオシステム説明会，電子出版説明，メンタルヘルス講習会
25 年度	<ul style="list-style-type: none"> ・TA/RA ガイダンス ・ハラスメント講習会 ・学長による教授会訪問 ・外国人留学生を取り巻く環境の変化 ・研究大学強化推進事業に係る生物圏科学研究科 FD ・ハラスメント防止研修会